

奥津軽 五所川原

ごしよがわら



青森県五所川原市

心躍らせる火祭りの故郷。

太宰の面影を偲ぶ郷里。



虫おくり



津軽三味線



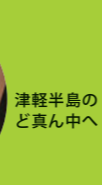
太宰治



ストーブ列車



立佞武多

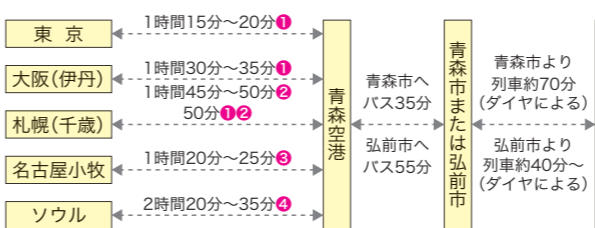


津軽半島の真ん中へ

●掲載されている情報は平成29年3月31日現在のものです。●掲載されているイベント等の詳細につきましては各お問い合わせ先までお願いします。●イベントの期日・時間等、内容やつきまちは変更される場合があります。

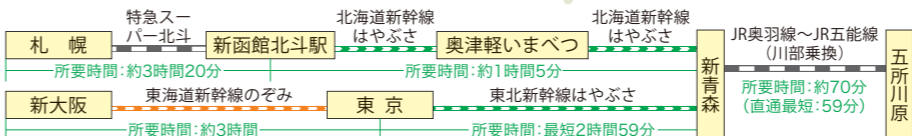
奥津軽・五所川原市への1次交通 / 2次交通

飛行機の場合



- ① JAL国内線予約・案内 ☎0570-025-071 ☎03-5460-0522
- ② ANA国内線予約・案内センター ☎0570-029-222
- ③ FDAコールセンター ☎0570-55-0489 ☎054-903-3110
- ④ 大韓航空青森支店 ☎017-732-3311

JRの場合



※ご利用される列車や日時によって、目的地までの所要時間が変わる場合があります。あらかじめ駅窓口にてお尋ねいただくか、大型時刻表でご確認ください。

●問(時刻、運賃、料金、空席情報) / JR東日本お問い合わせセンター ☎050-2016-1600 (6:00~24:00)

奥津軽・五所川原市への2次交通 / 3次交通

弘南バス【奥津軽いまべつ〜津軽中里】【五所川原〜小泊】

- 【奥津軽いまべつ駅〜津軽中里駅(津軽鉄道)】(約1時間10分) / 奥津軽いまべつ駅〜津軽中里駅 ●便数 / 往復4便
- 【十三経由】 / 五所川原営業所〜(約15分)〜五所川原駅〜(約13分)〜有楽町(JR木造駅近く)〜(約67分)〜中の島公園入口(十三湖)〜(約49分)〜小泊 ※停留所は一部省略 ●便数 / 9便(小泊へは3便)
- 【金木・中里経由】 / 五所川原営業所〜(約15分)〜五所川原駅〜(約30分)〜金木案内所〜(約15分)〜中里駅〜(約22分)〜相内〜(約53分)〜小泊 ※停留所は一部省略 ●便数 / 6便
- 問 / 五所川原駅前案内所 ☎0173-35-9121 ●HP / konanbus.com/

津軽鉄道

- 路線 / 津軽五所川原〜金木〜芦野公園〜津軽中里 ※駅は一部省略。
- 便数 / 往復最大30便(日曜・祝日運休便有り)
- 問 / 津軽鉄道五所川原駅 ☎0173-34-2148 ●HP / tsutetsu.com/

JRリゾートしらかみ 五能線

- 路線 / 青森〜新青森〜弘前〜板柳〜五所川原〜鯉ヶ沢〜深浦〜十二湖〜秋田
- 始発・終着 / 秋田駅→青森、青森駅→秋田、弘前駅→秋田
- 便数 / 往復全6便(夏季・冬季は便数が変わります)
- HP / www.jreast.co.jp/akita/gonosen/index.html

五能線(青森より奥羽線経由、川部乗り換え) ※上り・下りとも平日の便

- 路線 / (青森〜)弘前〜川部〜藤崎〜板柳〜陸奥鶴田〜五所川原〜木造〜鯉ヶ沢〜千畳敷〜深浦〜十二湖〜白神岳登山口〜岩館〜東能代
- 上り / 深浦→東能代、鯉ヶ沢→東能代、弘前→東能代、弘前→深浦、弘前→鯉ヶ沢、青森→川部→深浦
- 下り / 鯉ヶ沢→弘前、深浦→弘前、深浦→川部→青森、五所川原→弘前、東能代→弘前

タクシー ※市外局番は0173

- 五所川原交通 ☎35-3030
- 尾崎タクシー ☎35-2195
- 木村タクシー ☎35-7755
- 外崎タクシー ☎35-5252
- ノーリツタクシー ☎35-1655
- 成田観光タクシー ☎34-2661

金木

- 金木観光タクシー ☎52-3030
- 金木タクシー ☎53-2505

市浦

- しうら観光タクシー ☎62-2204
- 市浦タクシー ☎62-3139

列車案内 ※市外局番は0173

- JRお問い合わせセンター ☎050-2016-1600
- 津軽鉄道五所川原駅 ☎35-7743
- 津軽鉄道金木駅 ☎53-2056

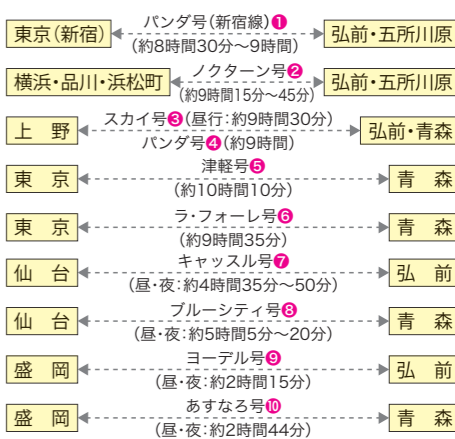
路線バス ※市外局番は0173

- 弘南バス五所川原営業所 ☎35-3212
- トヨタレンタリース ☎33-0100
- 白取レンタリース ☎36-3377
- ニッポンレンタカー ☎39-2883
- タイムズカーレンタル ☎38-5033

五所川原市観光物産課 ☎0173-35-2111 ●五所川原市観光協会 ☎0173-38-1515

●http://www.city.goshogawara.lg.jp/tourism/ ●Facebook 五所川原市観光物産課

長距離バスの場合



- 東京(新宿) バンダ号(新宿線) ① (約8時間30分〜9時間) 弘前・五所川原
- 横浜・品川・浜松町 ノクターン号 ② (約9時間15分〜45分) 弘前・五所川原
- 上野 スカイ号 ③(昼行:約9時間30分) バンダ号 ④(約9時間) 弘前・青森
- 東京 津軽号 ⑤ (約10時間10分) 青森
- 東京 ラ・フォーレ号 ⑥ (約9時間35分) 青森
- 仙台 キャッスル号 ⑦ (昼・夜:約4時間35分〜50分) 弘前
- 仙台 ブルーシティ号 ⑧ (昼・夜:約5時間5分〜20分) 青森
- 盛岡 ヨーデル号 ⑨ (昼・夜:約2時間15分) 弘前
- 盛岡 あすなる号 ⑩ (昼・夜:約2時間44分) 青森

※昼・夜の表示の無い場合は夜行となります。ヨーデル号以外の路線は要予約
●問 / ①〜⑥7 ⑦〜⑩弘前バスターミナル ☎0172-36-5061、予約センター ☎0172-37-0022
●⑥〜⑧ JRバス ☎017-773-5722

北海道新幹線「奥津軽いまべつ駅」と津軽鉄道「津軽中里駅」を結びます。奥津軽いまべつ〜津軽中里路線バス

五所川原〜木造〜中の島(十三湖)〜小泊の路線と、五所川原〜津軽中里〜小泊の路線があります。弘南バス(十三湖・小泊へ)

津軽五所川原より津軽中里を結びます。津軽鉄道

青森県屈指の景勝路を走るリゾート列車。JRリゾートしらかみ 五能線

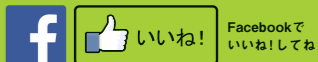
新青森または弘前と五所川原を結びます。五能線(奥羽線経由) ※川部乗り換え

お得に、便利に、津軽の旅 津軽フリーパスエリア (エリア内2日間乗降自由)

津軽フリーパス

【ご利用できる交通機関】※すべての路線は一部駅を省略。
●JR奥羽線 / 青森駅〜碓ヶ関駅 / (弘前駅〜)川部駅〜五所川原駅
●津軽鉄道 / 津軽五所川原駅〜金木駅 ●弘南鉄道(全線) / 大鰐線・弘南線
●弘前市路線バス / 弘前市循環バス(ためのぶ号・土手町循環・城東循環)、他 ●五所川原市路線バス / 五所川原商店街循環(五所川原駅前バスセンター〜エラムの街、他) ●黒石市方面路線バス / 平川市方面路線バス / 大鰐・碓ヶ関方面路線バス ●西目屋村方面路線バス / 大秋・川原平線

【販売所・料金・特典・他】
●販売所 / 青森駅・新青森駅・弘前駅・五所川原駅・川部駅・板柳駅・深浦駅・鯉ヶ沢駅のみどりの窓口、秋田県内(東大館駅・十和田駅・鹿角花輪駅を除く)のみどりの窓口、びゅうプラザ、主な旅行会社
●料金 / 大人2,060円、子供1,030円
●特典 / ①協賛施設で、料金割引やウェルカムドリンクなどのサービス。②割引情報などを掲載したガイドブックとフリーエリア内の時刻表が付いたポケットサイズの時刻表を進呈。
●有効期間 / 2日間(乗り降り自由)
●問 / 津軽フリーパス運営協議会(弘前市観光振興部国際広域観光課内) ☎0172-40-7017(受付時間9:00~17:00※平日のみ)
●HP / www.tsugarunavi.jp/freepass/



立佞武多

TACHINEPUTA

ビル七階建てに匹敵する高さ約二十三メートル、重さ約十九トンの偉容。百年の時を経て五所川原の歴史が街を練り歩く。



「眠り流し」民俗が巨大化した奥津軽の祭礼。

明治時代からのメッセージ

巨大な五所川原立佞武多が記録に登場するのは、明治40年頃と言われており、当時の豪商・大地主の富の象徴として、高さを誇るようになり、約10〜12間(約18〜21・6m)に及ぶようになり、その勇姿は、近隣の町村からも見えたと言われるほど巨大なものでした。しかし、大正時代になり電線が通りを横切ることにより、ねぶたは小型化の一途をたどり、また、戦後に起きた2度の大火で街が全焼したことにより、設計図や写真が消失し、巨大ねぶたは姿を消しました。復活の発端となったのは、平成5年に発見された明治・大正のものと思われる巨大ねぶたの台座の設計図。設計図には年代は記されていませんでしたが、明治・大正期の巨大ねぶたのものと推察されました。



明治後期の巨大ねぶたの写真

巨大ねぶた復活へ。立佞武多と命名。

平成8年、約80年ぶりに苦難の復元が始動。その巨大ねぶたは「立佞武多」と命名されました。復元の場は岩木川河川敷、復活の「初陣」は、ねぶたの起源「眠り流し」の民俗行事に因んで旧暦の七夕の時期に合わせられました。そして7月1日午後8時、約1世紀ぶりに新しい歴史を刻むことになる立佞武多「武者」に点灯。宵に威風が浮かび上がり、囃子が空気を震わすなかでの400メートルの運行。その威風は喝采と感動を呼びました。7日には、

古習に倣い火が放たれ、立佞武多を昇天。その幻想的景観は止めどない感涙を呼びました。



立佞武多を復活させた有志たち。

「五所川原・立佞武多」まつり開幕。

「巨大ねぶた復活」から2年後の平成10年。立佞武多が市街を練り歩く準備が始まり、道を横切る電線等を埋設するインフラなどの整備が急ピッチに行われました。同年8月5日、恒例の「ねぶた祭り」において、およそ7階建てのビルに相当する高さ22メートル、総重量16トンの立佞武多「親子の旅立ち」が、30人の若者に曳かれ、闇にその威容を浮かび上がらせました。その数分後、市民や観光客が運行コースに詰めかけ、立佞武多が立ち往生する場面もあったほど混沌とした興奮に包まれました。



平成11年より、年ごとに新作の大型立佞武多が製作されています。祭りの名称も「五所川原立佞武多」となり、現在では新作1台を加えた3台の大型立佞武多の他、町会や団体が製作する大小様々な立佞武多や組ねぶたが運行



されます。ヤッテマレの力強い掛け声とともに五所川原の夜を熱くします。

巨大な偉容が眼前に、「立佞武多の館」

祭り本番に出陣する大型の立佞武多3台を展示しています。らせん状のスロープを下りながら観覧できるので、巨大なねぶたを間近でじっくり眺められます。製作途中の立佞武多見学はもちろん、紙貼りや色付けなども体験できます。毎週日曜に開催の囃子実演で本番さながらの熱い心も体感できます。



立佞武多の館で展示される大型立佞武多

五所川原花火大会

約70年の歴史を誇ります。現在は立佞武多まつりの前夜祭として行われ、噴水や照明、BGMに合わせて約5千発のスターマイン(連続花火)が打ち上げられます。フィナーレには幅80mのウォーターカーテンがライトアップされ、花火とともに夜空を彩ります。



五所川原花火大会

- 期日/8月3日 ●時間/19:30~
- 有料観覧席有り(要問合)
- 場所/岩木川河川敷
- 交通/JR五所川原駅より徒歩約10分
- 問/五所川原商工会議所 ☎0173-35-2121
- 地図/P17:B-1

立佞武多の館

- 開館/9:00~19:00(4月~9月)
- 9:00~17:00(8月4日~8日、10月~翌3月)
- 9:00~15:00(12月31日)
- ※日曜はお囃子実演有り。(要問合)
- 休館/1月1日(営業の場合有。要問合)
- 入館料/立佞武多展示室一般600円
- 交通/JR五所川原駅より徒歩約5分
- 問/☎0173-38-3232 ●地図/P17:C-2

NEP×NEBパスポート

- 「ねぶたの家ワ・ラッセ」、「津軽藩ねぶた村」、「立佞武多の館」のお得な3館共通入場券。祭りのためにおき情報や津軽地域の見どころ、グルメ情報などが詰まったガイドブックもゲットできます。3館全てのスタンプを押すと、佞武多之達人の称号が刻印された記念カードを進呈。
- 料金/一般1,400円、高校生1,000円、中学生700円、小学生600円
- 問/ねぶたの家ワ・ラッセ ☎017-752-1311
- 立佞武多の館 ☎0173-38-3232、津軽藩ねぶた村 ☎0172-39-1511



五所川原立佞武多まつり

- 期間/8月4日~8日 ●時間/19:00~21:00 ●場所/五所川原市中心市街地
- 料金/有料観覧席2,500円~(要申込) ●交通/JR五所川原駅より徒歩約3分
- 問/五所川原市観光協会 ☎0173-38-1515 ※有料観覧席については、五所川原商工会議所 ☎0173-35-2121、まちなか五所川原 ☎0173-33-6338
- 祭り期間は、臨時駐車場をご利用頂けます。(P16・17参照)

太宰

DAZAI MUSEUM

『太宰の文章は、読者への手紙である』と語ったのは、太宰研究者として有名な奥野健男である。生きることの歡びと哀しみ、善と悪、高貴と卑しさ。太宰は、人間の奥深くにひそむ根元的な業を天賦の才能であぶり出し、私信のように読み手に送り続けた。

ミユージム

六月十九日

「私の生れた日は明治四十二年の六月十九日である。」
「私は子供の頃、妙にひびいて、自分を父母のほんとうの子ではないと思ひ込んでいたことがあった。」

「夕暮でした。あの、小間で生れたのでした。蚊帳の中で生れました。ひどく安産でした。すぐに生れました。鼻の大きいお子でした。色々な事をはつきり教えてくれるので、私も私の疑念を放棄せざるを得なかった。なんだが、がっかりした。自分の平凡な身の上が不満であった。」（六月十九日「一九四〇年執筆」）

太宰治（本名 津島修治）は、明治42年、父・源右衛門と母タ子（タネ）の6男として、青森県北津軽郡金木村（現・五所川原市）に生まれました（11姉弟の内第10子）。生家は大地主で、後に貴族院議員を務める父・源右衛門は、地元で「津軽の殿様」と呼ばれていました。地主貴族の子。これは、鋭敏な感性の持ち主である太宰の生涯に影のようにつきまとったコンプレックスでもあったのです。幼少の頃、誰よりも道化を演じてみせたのは、怖れる人間に対する煙幕と、自己顕彰によるものだったろう。病弱な母に代わって、太宰は同居していた叔母・きゑや、子守りの越野タケに育てられました。添い寝しながら毎晩聞いた昔話の独特のリズムと旋律は、後の太宰が「語り口調の天才」と呼ばれる原体験になったのかもしれない。



昭和21年、東京銀座のパー・ルパンにて。(撮影：林忠彦/所蔵：周南市美術博物館)

今なお魅了してやまない太宰文学。生地探訪。



太宰治肖像(青森県近代文学館提供)

「斜陽」そして「人間失格」。

県立青森中学、官立弘前高等学校、東京帝国大学。大正デモクラシー、マルキシズムの洗礼を受けて、太宰の苦悩は深まっています。自殺未遂、心中未遂、薬物中毒。そんななか、昭和14年に、恩師・井伏鱒二の紹介で石原美知子と結婚。東京女子高等師範学校（現・お茶の水女子大学）を出て教師をしていた美知子は、後に著書『回想の太宰治』で語っています。著書を読んだだけで会わぬさきからただ彼の天分に眩惑されていたと。

創作意欲を取り戻した太宰は、『富嶽百景』、『走れメロス』、『津軽』、『お伽草紙』、『斜陽』など後世に残る名作を執筆し、時代の寵児として名をあげていきます。しかし、自伝的ともいえる『人間失格』を書いてまもない昭和23年、愛人・山崎富栄と共に玉川上水に投身自殺し、この世を去ります。

「撰ばれてあること」の恍惚と不安と「つわれにあり」。

これは太宰が生前、もつとも好んで口にしたといわれるヴェルレーヌ(フランスの詩人)の一節。芦野公園にある「太宰治文学碑」に刻まれており、中央の鉄格子は、「人間の道には狭いけわしい一つ一つの門がある」ということを意味しているといえます。

碑は太宰がよく遊んだ芦野公園、大倉岳、賽の河原などがよく見通せる場所に建立されています。ここで「太宰治生誕祭」が行われ、銅像も近くに建立されています。



太宰治文学碑



太宰治銅像

太宰治記念館「斜陽館」

明治40年に建てられた太宰の生家。国の重要文化財に指定され、蔵を利用した展示室には、直筆原稿、太宰が着用していた二重回しのマント、川端康成や兄・文治との書簡など、約600点の貴重な資料が展示されています。



斜陽館



斜陽館内

斜陽館の離れ「新座敷」

終戦直前の昭和20年7月末から、東京や甲府の戦禍から逃れた太宰は、妻子と共にここに身を寄せていました。翌年11月まで滞在し、『バンドラの匣』、『冬の火花』など23もの作品を執筆しました。ギャラリースペースもあり、地元芸術家らの展示会なども開催しています。



新座敷



新座敷

小説『思ひ出』の背景。

太宰は幼い頃、子守のタケに連れられてよくこの寺を訪れました。『思ひ出』に登場する『地獄極楽の御絵掛地』は、実際には極楽の絵は無く地獄の絵だけです。また、後生車は不慮の死をとげた子供達の供養のために建立されたもので、子供達に沢山回してもらおうことにより魂が成仏できるとされていました。

昭和21年、金木町に文化会を作ろうという地域の有志が集い、「雲祥寺」本堂で発会式を開催。この席で太宰は講演を行いました。同年7月1日発行の『金木文化』創刊号の扉に、太宰は贈る言葉として、『汝を愛し、汝を憎む』という言葉をしたためています。



雲祥寺(地図/P18:F-3)

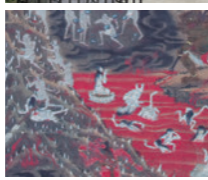


地獄極楽の御絵掛地

まちなか「思ひ出」パーク

大正5年(1916年)1月18日、太宰治が幼少の頃、母と慕った叔母キエの一家が、太宰の生家である金木の津島家から分家した際に建てられ、太宰も実際に暮らしたところのある蔵を、平成26年に再築したのが「太宰治思ひ出」の蔵です。他にも飲食店や体験施設が建ち並び「トカトントン・スクエア」があります。

後生車



後生車

太宰治記念館「斜陽館」

- 開館/8:30~18:00(5月~10月)、9:00~17:00(11月~翌4月)
- 休館/12月29日
- 料金/一般500円、高大300円、小中200円
- 交通/津軽鉄道金木駅より徒歩約7分
- 問/☎0173-53-2020
- 地図/P18:F-3

旧津島家新座敷

- 料金/500円(希望者にはガイド有り)
- 開館/9:00~17:00
- 休館/不定休(ほぼ毎日開館)
- 交通/津軽鉄道金木駅より徒歩約4分
- 問/白川☎0173-52-3063 ●地図/P18:F-3

太宰治「思ひ出」の蔵

- 開館/10:00~17:00
- 休館/8月13・14日、12月31日~翌1月2日
- 入場料/大人200円
- 問/まちなか五所川原☎0173-33-6338
- 地図/P17:C-2

太宰治ゆかりの地文学散歩

- 時間/10:00~(除外日8月13日、12月29日~翌1月3日)
- 料金/2時間コース2,400円、3時間コース5,000円(4月~11月)
- 定員/2~9名(10名以上は要相談)
- ※2名以上、3日前まで要予約
- 場所/津軽鉄道金木駅集合
- 問/太宰治記念館「斜陽館」☎0173-53-2020
- 地図/P18:F-4(金木駅)

太宰治ゆかりの地、文学散歩

生家や戦時中に疎開していた家など太宰治ゆかりの地が数多く残る五所川原市金木地区を地元ガイドと歩いてみませんか。

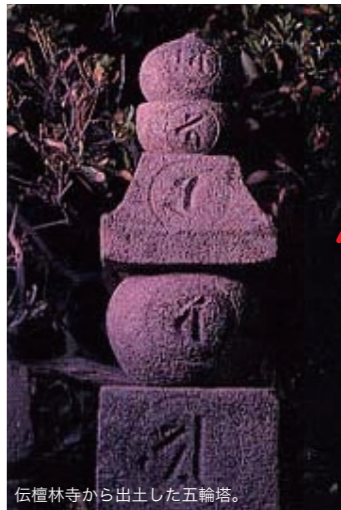


南臺寺(地図/P18:F-3)

歴史探訪

HISTORY

北方世界との交易・流通拠点の窓口として役割を果たした中世日本有数の湊町、十三湊。十三湊を支配した安藤氏の軌跡と日本中世社会での「北の文化」を探訪。



伝徳林寺から出土した五輪塔。



山王坊・日吉神社



安藤盛季像と伝えられる武者木像

十三湊と安藤氏

十三湊は戦国時代までに成立したとされ「廻船式目」現在の海商法に当たる法律書のなかで「三津七湊」の一つに挙げられるなど、中世に始まる典型的な港湾都市のひとつです。中世後期に日本十指に数えられるなど全国的にみても北日本屈指の大規模に整備された湊町であり、日本海を舞台に津軽海峡を挟んだ北海道(蝦夷地)におけるアイヌ民族との北方産品(鮭・昆布・毛皮類など)を交易する拠点湊として栄えました。現在は「じゅうさん」江戸時代後期まで「とさ」と呼ばれていました。

その十三湊に拠点を置き、北方世界を支配したのは安藤氏です。安藤氏は自らの先祖を前九年の役(1051)1062年で朝廷側の源頼義と戦った安倍貞任の末裔とし、「安倍」を本姓としています。東夷の酋長と呼ばれた安倍氏のように、自らをエミシ(中世には「エゾ」と呼ぶ)のリーダーであると強く主張しています。津軽海峡を挟んだ北方世界を支配する正当性を誇示した特異な豪族なのです。最盛期の室町時代には北海道の渡島半島南部にいわゆる「道南十二館」と呼ばれる領域支配・交易拠点となる館をかまえ、配下の家臣に治めさせています(「新羅之記録」)。道南の館主とアイヌ民族との交易によって得られた北方産品は十三湊に一端集積され、さらに日本海を通じて京都方面へ運ばれていきました。このように十三湊は北方世界と畿内を結ぶ重要な湊としての地位を占めていたのです。また、十三湊が位置する津軽西海岸一帯は中世には「西浜」と呼ばれ、中世国家の東限と認識され



市浦歴史民俗資料館に展示されている安藤愛季(ちかすえ)の像(複製)

中世のロマンと安藤氏の世界に迫る。

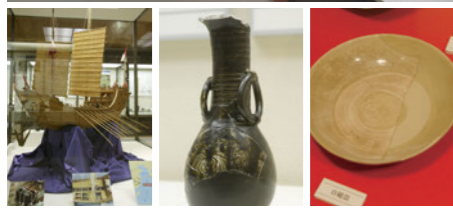
た「外ヶ浜」(陸奥湾西岸)と同様な性格を有する境界領域でした。まさに西の博多に対比されるような国際貿易港として日本史上極めて重要な意味をもっていました。

平成3年〜平成15年にかけて十三湊の学術調査が継続して進められ、十三湊に居住した人々の暮らしぶりや港湾の実態解明に向けた調査が行われてきました。その結果、中世十三湊が鎌倉〜室町時代(13〜15世紀中頃)に繁栄した湊町だったことが判明し、平成17年7月に国史跡指定となりました。

市浦歴史民俗資料館

十三湊からは膨大な量の陶磁器が見つかり、物資の集積所だった様子を伝えています。中国や朝鮮半島から運ばれた青磁・白磁・高麗青磁、福井県の越前焼、石川県の珠洲焼、愛知県の瀬戸焼などが主要なものです。広く海外や国内各地から日本海を通じて物資が運ばれ、活発な交易活動が行われていたことが明らかになりました。

市浦歴史民俗資料館では、領主館と周辺の様子、武家屋敷と町屋の様子、安藤氏の活動と精神世界、映像展示コーナーで安藤氏の繁栄ぶりを紹介しています。



南部氏との攻防の舞台となった唐川城跡



安藤氏の居城と伝えられる福島城跡(地図/P18市浦地区詳細図)

福島城跡、唐川城跡、山王坊・日吉神社

中世港湾都市・十三湊を中心に極めて発展した十三湖周辺地域には、数多くの十三湊安藤氏関連の遺跡が存在しています。特に十三湖北岸には福島城跡、唐川城跡など大規模城跡や十三湊の霊場・山王坊日吉神社(山王坊遺跡)、唐川城跡中腹にある津軽三十三霊場第十七番札所の春日内観音堂(竜興寺跡)など、中世的景観が色濃く残る全国的にもても貴重な歴史的・文化的景観に恵まれた地域です。



春日内観音堂。中世の宗教施設、龍興寺跡とされる

オセドウ貝塚と五月女菀遺跡

十三湖周辺には縄文時代の遺跡も多く見つかっています。オセドウ貝塚は縄文時代前期中頃〜中期(約5500年前〜4000年前)にかけて形成されたヤマトシジミを主体とする遺跡で、大正10年(1921)に貝塚から、埋葬された縄文人骨が発見されたことでよく知られています。

五月女菀遺跡は縄文時代後期後葉から晩期後葉



五月女菀遺跡から発掘された人面付浅鉢形土器



オセドウ貝塚で発見された人骨

旧平山家住宅と楠美家住宅

弘前藩広田組代官所の手代を代々務めた平山家。津軽地方の上層農民が生活した当時の姿を保つ極めて貴重な資料とされ、主屋と表門は国の重要文化財に指定されています。藩政時代、農民は門を建てることを許されていませんでしたが、平山家は藩に対する功勞により表門の建造を許可されました。

製材業を営んでいた楠美家の主屋は明治25年頃に秋田から材木を買って建てられた茅葺寄棟造。外観、間取りともに建築当時の様子をよく残した大型民家です。



旧平山家住宅



楠美家住宅

布嘉屋(ぬのかや)

豪商の町、五所川原。中でも呉服商から東北屈指の大富豪となった佐々木嘉太郎の「布嘉御殿」は別格。御殿は大火で焼失しましたが、巨額の私費を投じ、平成21年に御殿の模型を完成させたのが佐々木治さん。なんと模型のみならず展示館まで作ってしまいました。



横8m、高さ2.5mにもおよぶ大きさを精緻な細工まで再現された「布嘉御殿」

市浦歴史民俗資料館

- 開館/9:00~16:00
- 休館/12月1日~翌3月31日
- 料金/一般300円
- 交通/五所川原駅より車約50分
- 問/市浦地域活性化センター ☎0173-62-2775
- 地図/P18:C-1

旧平山家住宅

- 休館/月曜(祝日の場合、翌日以降の平日)、12月1日~翌3月31日
- 時間/9:00~16:00
- 料金/無料
- 交通/JR五能線五所川原駅より車約10分
- 問/旧平山家住宅 ☎0173-34-8870
- 地図/P17:E-1

楠美家住宅

- 休館/12月1日~3月31日
- 開館/9:00~16:00 ●料金/無料
- 交通/津軽自動車道五所川原東ICより車で10分
- 問/五所川原市教育委員会文化スポーツ課 ☎0173-35-2111
- 楠美家住宅管理人室 ☎0173-29-3575
- 地図/P16:F-3

布嘉屋(ぬのかや)

- 休館/不定休 ※冬期間は閉館
- 時間/10:00~16:00(4月20日~11月10日) ※要予約
- 料金/一般500円
- 交通/五所川原駅より徒歩約7分
- 問/☎0173-34-7670
- 地図/P17:B-3

十三湖・しじみ力りよく



**生産量全国トップクラス
十三湖の「ヤマトシジミ」**

津軽国定公園である十三湖は、青森県で3番目に大きな湖。汽水湖ゆえの生物も多く、しじみはその最たるもの。しじみの遊漁場もあり、解禁期間は多くの家族連れで賑わいます。湖畔は水を浄化する作用のある葦が生い茂り、幻の鳥といわれるオオセッカや天然記念物であるオオワシなどの野鳥も多く見られます。また、絶好の釣りポイントでもあり、ボラやウグイ・ワカサギ・ヒラメ・ハゼなどが生息し、太公望の憩いの場となっています。

特産のヤマトシジミは全国有数の生産量を誇ります。しじみは夏の土用しじみが旬といわれますが、十三湖が結氷する厳寒期のしじみも美味「寒しじみ」と呼ばれ、夏に比べると身は若干小さいもの



湖面の水を割って行われる冬のしじみ漁

赤〜いりんご御所川原



花、葉、果実までもが赤い林檎



「赤〜いりんご」の花

五所川原市には、果肉・花・若葉・枝までもが赤いという世界的にも大変珍しい「赤〜いりんご」があります。市内の「二ツ谷」地区には、「赤〜いりんご」の並木道があり、5月上旬、花が満開の頃に多くの観光客が集まる憩いの場となっています。赤〜いりんごは、当市出身の前田顕三氏により昭和14年から育成されました。氏により20数年の時をかけた「赤〜いりんご」は誕生したのです。現在までにこのりんごを利用した加工商品が数々生み出されてきました。鮮やかなロゼカラーが特長のワイン、ほどよい酸味、軽やかな甘さのジュースやジャム、爽やかなりんごの風味と香りが楽しめる「中まで赤〜いりんごの麺」等々。いずれも無添加・無着色で、自然な美味しさをお楽しみいただけます。

百年食堂「亀乃家の天中華」

「百年」の歴史を誇る老舗「そば処・亀乃家」。立佞武多の館の裏手にあるここ亀乃家の「天中華」とは、ホタテのかき揚げをのせた中華そば。常連客の隠しメニューだったものが、評判を呼んで定番に。かき揚げの旨味とコクが中華そばにベストマッチ。

サクッカリツの食感も楽しい「あげたい」

注文を受けてから揚げるので出来たて熱々。学校帰りに、ちょっとした土産に、地元民御用達のおやつ。〇〇してあげたい」という気持ちを込めた縁起物としても人気。「みわや」には揚げたいメニューがいっぱいあります。

つくね芋

「つくね芋はヤマモの一種で、長芋、大薯、自然薯の仲間です。長芋と比較すると味が濃厚で、粘りが強く、栄養価の高いことから中国では滋養強壯の漢方薬として用いられています。また、つくね芋に含まれている消化酵素は食べ物の消化を助けてくれることから、昔から薬用食、強精食として重用されてきました。つくね芋はすりおろして温かいご飯にかけて食べたり、短冊に切ってわさび醤油で食べるだけでも、美味しく召し上がることができます。

まちなか市場「マルコーセンター」

立佞武多の館に隣接し、青森の新鮮な食材を販売する市民の台所。鮮魚や魚介類の加工品、山里の旬の幸なども豊富に品揃え。お土産などにご利用できます。

の、旨みを蓄えて出汁が良く匂とされています。しじみはグリコーゲンやタウリンを大量に含み、肝臓や黄疸などによいとされています。このしじみの栄養素を手軽に取り入れられ、またエキスを多分に含んだ加工品に、しじみエキスドリンクや様々な加工品も開発されています。またしじみラーメンや味噌、佃煮などの趣向品も人気の商品です。



「マディニー」で太宰の好物を食べよう

マディニーは地元金木をはじめ津軽半島など近隣の観光スポット・観光ルートの紹介や金木の特産品を販売。レストランでは、太宰治が好んだ根曲がらうめん、「若生おにぎり」などが堪能できます。

金木名物、馬肉料理

「馬まん」は馬肉を使ったまんじゅうのこと。太宰の好物、根曲がり竹が入った醤油味や、金木独特な「馬肉鍋」の具材がそのまま入った味噌味・カレー味があります。ほかにも馬肉をじっくり煮込み、スパイスを効かせた「激馬かなぎカレー」などの、激馬料理は芦野公園駅の旧駅舎を改装した喫茶店「駅舎」でいただけます。

五所川原地域ブランド

五所川原市では、平成24年より毎年、地域ブランド商品認定しています。「赤〜いりんご御所川原」や十三湖のしじみ、つくね芋、馬肉を使用した加工品はもちろんのこと、地元産大豆の手作り味噌や焼酎、長芋や自家製野菜のお菓子など、さまざまな商品が目白押しです。

●問/五所川原地域ブランド推進協議会(五所川原市経済部観光物産課) ☎0173-35-2111(内線2557・2558)



激馬かなぎカレー



馬まん



若生おにぎり

道の駅十三湖高原

十三湖名産ヤマトシジミや各種しじみ加工品の販売、名物しじみラーメンや市浦牛の料理も提供しています。

「市浦牛」は昭和62年、東北・北海道ブロックの品評会で東日本チャンピオンに輝いた高級ブランド。しかしながら、数が非常に少なく、「幻の市浦牛」と呼ばれています。

しじみの汁焼きそば

青森県産米の米粉が入ったもちりと香ばしい麺を使用。塩味ベイスのしじみスープ、コクのバター風味、しじみの旨味が引き出された汁焼きそばは、新ご当地グルメとして人気です。五所川原・金木・市浦(十三湖)地区で提供しています。

しじみ収穫体験

十三湖の「中の島」では、有料でしじみ採り体験ができます。十三湖は遠浅のため、レジャー感覚でしじみ漁を行うことができます。



道の駅十三湖高原
「トーサムグリーンパーク」
●時間/9:00~18:00(4月~10月)、9:00~17:00(11月~翌3月)
●交通/JR五所川原駅より車約50分
●問/☎0173-62-3556
●地図/P18:C-3

しじみラーメン
●期間/通年
●時間・料金/各店で異なります
●場所/十三湖中の島近辺
●交通/JR五所川原駅より車約50分
●問/ドライブイン和歌山☎0173-62-2357
レストランわらび☎0173-62-3710
●地図/P18:C-1入り

しじみの汁焼きそば
●期間/通年
●時間・料金/各店で異なります
●場所/要問合せ
●問/五所川原商工会議所☎0173-35-2121

馬肉料理
●場所/喫茶店「駅舎」
●料金/要問合せ
●開店/10:00~17:00(LO16:30)
●休/水曜、12月29日
●交通/津軽鉄道芦野公園駅より徒歩すぐ
●問/喫茶店「駅舎」☎0173-52-3398
●地図/P18:D-3

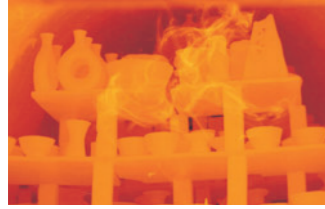
赤〜いりんご加工品・つくね芋
●販売場所/立佞武多の館など
●販売時期/要問合せ
●問/観光物産課☎0173-35-2111

マルコーセンター
●時間/8:00~18:00
●休/第2・4・5日曜
●交通/JR五所川原駅より徒歩約5分
●問/マルコーセンター☎0173-34-2264
●地図/P17:C-2

亀乃家
●時間/10:00~18:00
※冬期17:00まで
●休/月曜
●交通/JR五所川原駅より徒歩約5分
●問/☎0173-35-2474
●地図/P17:C-2

あげたいの店みやわ
●時間/9:00~18:00
(無くなり次第終了)
●休/第1・第3日曜
●※臨時休業有
●交通/JR五所川原駅より徒歩約7分
●問/☎0173-34-2064
●地図/P17:B-2

金木観光物産館「マディニー」
●時間/マディニー9:00~18:00(4月20日~10月31日)、9:00~17:00(11月1日~翌4月19日)、はな(食事処)11:00~16:00
●休/どちらも無休
●交通/津軽鉄道金木駅より徒歩約7分
●問/マディニー☎0173-54-1155
はな(食事処)☎0173-54-1160
●地図/P18:F-3



風土の技を体感

津軽三味線、響の景



焼き締め〱の逸品、津軽金山焼

その昔、「須恵器」の一大生産地であった梵珠山。そこを「津軽金山焼」の本拠地としたのは、この地を再び陶芸の里として蘇らせたいという思いによるものです。

金山の大溜池の底に堆積していた良質の粘土を用いたこの陶器は、梵珠山麓の傾斜面に焼成室を連ね、下方の房から上方へ渡る余熱を利用する「登り窯」内で11昼夜を掛けて焼き上げられます。釉薬を一切使わず、高温で時間を掛けて焼き硬める「焼き締め」という手法で、自然で深みある風合いを引き出します。最近では、東津軽郡産出の流紋岩と金山粘土を合わせた純青森県産の原料を使用した新商品を開発するなど、応用分野を広げています。



津軽三味線発祥の地、奥津軽の音色を楽しむイベント

厳しい風土から生まれた津軽三味線。元祖、神原の仁太坊こと本名、秋元仁太郎（安政4年（昭和3年）は、旧金木町の出身です。苦難の末、生きるための芸として造り出した、叩き奏法や八人芸。やがて、仁太坊門下の「嘉瀬の桃」や名手、「白川軍八郎」などによって津軽三味線の基礎が築かれました。

現在、豪華華麗な津軽三味線の音楽は、全国の愛好者・ファンを魅了しています。「津軽三味線会館」は、津軽三味線の発祥とそのルーツを広く知ってもらうための施設です。歴史資料を幅広く展示するほか、1日5回、三味線の生演奏を聴くこともでき、津軽民謡、各国の弦楽器、津軽三味線の音色を楽しむコーナーなど、多彩な施設です。

大会も開催されており、芦野公園の桜まつり期間中に開催される「津軽三味線全日本金木大会」は、三味線ファンが集う、盛況のイベントです。また、津軽三味線の元祖、「仁太坊」の功績を讃えるため、平成6年より開催されている「仁太坊まつり」は、津軽三味線全日本金木大会入賞者による、津軽三味線エキシビジョンで、好評を博しています。



自分だけの金山焼を作る陶芸体験

窯場は年中無休でいつでも見学できるほか、陶芸教室もあります。お預かりした作品は2ヶ月以内に焼き上げてお届けします。



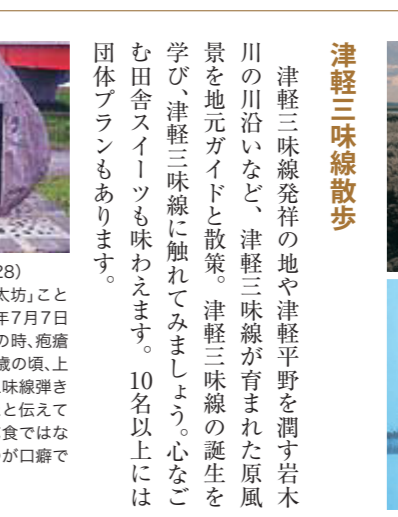
津軽三味線会館

展示室では津軽三味線の歴史や民謡、郷土芸能等を紹介。津軽三味線の生演奏もあり、事前予約でプロから津軽三味線の体験指導を受けられます。



紙貼り体験(無料)

7階建てのビルに相当する23メートルの立俵武多は、ほぼ一年を通して製作しています。まつりに出陣する大型立俵武多の紙貼りを無料体験できます(時期要問合せ)。他に津軽の民芸品「金魚ねぶた」や、実際の立俵武多の色付けの紙を使ったうちわ作りなどの製作体験もできます。



津軽三味線散歩

津軽三味線発祥の地や津軽平野を潤す岩木川の川沿いなど、津軽三味線が育まれた原風景を地元ガイドと散策。津軽三味線の誕生を学び、津軽三味線に触れてみましょう。心なごむ田舎スイーツも味わえます。10名以上には団体プランもあります。

「津軽金山焼」で陶芸体験

- 期間/9:00~17:00 (12/30~1/3は体験休み)
- 料金/陶芸:大人1,200円、小人900円(いずれも税別)
- 交通/JR五所川原駅より車約15分
- 間/☎0173-29-3350
- 地図/P16:F-3

かなぎ元気村で田舎体験

- 期間/4月~11月 ●時間/10:00~17:00
- 1週間前まで要予約 ●休館/水曜
- 料金/要問合せ
- 交通/津軽鉄道金木駅より車約12分
- 間/かなぎ元気村「かだるべえ」☎0173-52-2882
- 地図/P18:E-1

立俵武多の館で製作体験

- 期間/通年(要問合せ)
- 所要時間/45分~90分
- 体験料/500円(メニューにより異なります。紙貼り作業は無料、時期要問合せ)
- 交通/JR五所川原駅より徒歩約5分
- 間/☎0173-38-3232
- 地図/P17:C-2



仁太坊まつり

- 期日/9月上旬
- 場所/津軽三味線会館
- 交通/津軽鉄道金木駅より徒歩約7分
- 間/金木あすなろ商店会 ☎0173-52-2878
- 地図/P18:F-3

津軽三味線全日本金木大会

- 期間/毎年5月4・5日
- 場所/金木公民館
- 交通/津軽鉄道金木駅より徒歩約10分
- 間/津軽三味線会館 ☎0173-54-1616
- 地図/P16:E-2

津軽三味線会館

- 時間/8:30~18:00(5月~10月)、9:00~17:00(11月~4月)
- 料金/入館一般500円、体験指導(1回30分5,000円)
- 演奏時間/1日5回各20分(12月~翌3月は4回)
- ※時間是要問合せ
- 休/12月29日
- 交通/津軽鉄道金木駅より徒歩約7分
- 間/津軽三味線会館☎0173-54-1616
- 地図/P18:F-3

津軽三味線散歩

- 期間/通年(8月13~15日、12月29~翌1月3日は除く)
- 時間/10:00~12:00(3日前まで要予約)
- ※上記時間以外をご希望の方は要相談
- 料金/2,400円(2名以上でお申し込み下さい) ※1名の場合3,600円
- 場所/津軽鉄道金木駅集合
- 間/津軽三味線会館☎0173-54-1616
- 地図/P18:F-4

奥津軽の風物詩

津軽鉄道で味わう四季



津軽鉄道・芦野公園駅付近の桜。旧駅舎の喫茶店がある

ローカル列車で行く桜花の名所
 青森県立芦野公園は、およそ80ヘクタールの自然公園で、桜約千5百本と松並木が湖畔に広がる日本さくら名所百選に選ばれた景勝地です。太宰が少年の頃よく遊んだ場所として知られ、太宰が歩いた遊歩道や太宰治文学碑などもあり、ファンや観光客が散策しながら太宰を偲んでいます。「金木さくらまつり」会期中には、「津軽三味線全日本金木大会」が祭りにいっそうの華やぎを添え、打ち上げ花火が夜桜に彩りを添えます。

また津軽三味線発祥之地碑に吊橋、浮橋、児童動物園、家族で遊ぶふれあい広場、オートキャンプ場などがあり、地域の行楽地としても親しまれています。旧駅舎を改装した喫茶「駅舎」は散策の休憩にぴったり。公園の中を通る津軽鉄道、昔ながらの小さな駅、そんなのどかな風景を訪れる人々を一段と和ませています。



芦野公園の夜桜



芦野公園駅・旧駅舎を改装した、喫茶「駅舎」



芦野公園駅・旧駅舎を改装した、喫茶「駅舎」



奥津軽の旅情を愉しむローカル列車の旅
 ストープ列車で有名な津軽鉄道は、津軽五所川原駅〜津軽中里駅間20.7kmを、45分で結ぶローカル線。昔は津軽半島の木材を運ぶ森林鉄道として栄えました。車窓からは穀倉地帯や津軽山地の四季の移ろいを楽しみることができます。

津軽鉄道は各種のイベント列車も運行しており、「津軽金山焼」の風鈴を車内に吊す「風鈴列車」(7〜8月)、アテンダントの浴衣姿が涼しげな「七夕列車」(7月上旬)、熱気に満ちたおもてなし「真夏のストープ列車」(8月上旬)、鈴虫の入った籠を車内に吊し音色を愉しむ「鈴虫列車」(9月〜10月中旬)も運行されます。

何より「ストープ列車」は、津軽鉄道の代名詞ともいえる存在。石炭を燃やすダルマストープが置かれた車内は、木造りの椅子や扉など、昭和の面影と雪国情緒あふれる雰囲気も抜群。沿線の利用者ばかりか、観光客からも厚く支持される名物列車です。

イベント貸切列車
 通常のダイヤで運行する列車に、貸切用の特別車を増設、貸切できます。窓を開閉できる旧式や冷暖房のついた車種、様々なコーディネートできます。また、ダイヤによっては、冬以外でも「ストープ列車(車種)」を貸切できます。(時節・時間・車種は津軽鉄道へ要相談)



ダルマストーブに石炭をくべる



暑い季節に熱い列車内は約50℃に達する



右/土鈴が取り付けられた風鈴列車
 右/浴衣姿のアテンダントが涼しげな七夕列車



イベント貸切列車で人気の高い旧車種



体を包む大きなブランケット「角巻き」
 雪に足をとられ転ぶこともしばしば

雪国地吹雪体験・スノーシュー・トレッキング体験
 「地吹雪体験ツアー」は、昭和63年より始まった体験企画。青森県の冬季観光のさきがけといっても過言ではない人気のイベントで、海外からの常連客もいるほど。

内容はモンペ、角巻き、カンジキ姿で地吹雪を体感する、というもの。冬の牙ともいえる地吹雪が存分に荒れ狂った日には、前を見て歩くことすら困難。積もった雪が強風で舞い上がる地吹雪のなか、昔ながらの角巻き姿で奥津軽の猛威を体験してみませんか。

川倉「賽の河原地蔵尊」
 芦野公園北東部の小高い丘、風光明媚な景勝地にある「川倉賽の河原」。その伝説は古く、数千年前、この地方の天空に不思議な御燈明が飛来した時、その光に照らされた場所から発見された地蔵尊を安置したのが始まりと伝えられています。地蔵堂内とその廻りには大小約2千体の地蔵が祀られています。旧暦6月22日から24日の例大祭では県内外から多くの参詣客で賑わい、哀調を帯びたイタコの「口寄せ」も行われます。

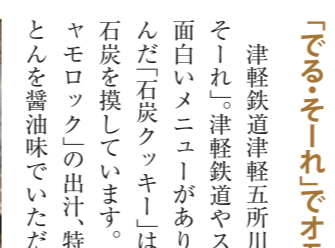


地蔵堂

「でる・そーれ」でオモシロメニュー
 津軽鉄道津軽五所川原駅そばにある「でる・そーれ」。津軽鉄道やストープ列車に関連した面白いメニューがあります。ストープにちなんだ「石炭クッキー」はブラックココアなどで石炭を模しています。また、青森県の地鶏「シヤモロック」の出汁、特産の長芋で作ったすいとんを醤油味でいただく「津鉄汁」が人気です。



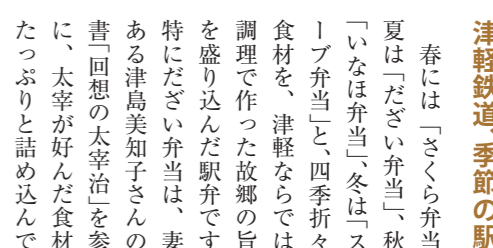
石炭クッキー
 津鉄汁(つてつじる)



だざい弁当



ストーブ弁当



いなほ弁当

さくら弁当

芦野公園 金木桜まつり
 ●期日/4月下旬〜5月上旬
 ●場所/芦野公園
 ●交通/津軽鉄道芦野公園駅下車
 ●問/金木桜まつり実行委員会
 ☎0173-52-2611
 ●地図/P18:D-3

川倉賽の河原地蔵尊大祭
 ●期日/旧暦6月22日〜24日(要問合せ)
 ●場所/川倉賽の河原地蔵尊本堂
 ●交通/津軽鉄道芦野公園駅より車約15分
 ●問/川倉地蔵堂事務所
 ☎0173-53-3282
 ●地図/P18:D-4

雪国地吹雪体験
 ●期間/1月下旬〜2月下旬の金・土・日曜
 ●料金/一般2,500円
 ●場所/金木地区
 ●問/津軽地吹雪会(代表・角田周)
 ☎080-3195-4036

スノーシュー・トレッキング体験
 ●期間/1月上旬〜2月下旬 ●休/1月1日〜3日
 ●時間/10:00〜12:00頃 ●料金/2,900円
 ●定員/2〜15人(16名以上は要相談)
 ●場所/芦野公園
 ●問/太宰治記念館「斜陽館」☎0173-53-2020
 ●地図/P18:D-3

ストープ列車
 ●期間/12月上旬〜翌3月下旬
 ●時間/1日3往復
 (12月の平日のみ2往復)
 ●料金/運賃+ストープ列車料金400円
 ●場所/津軽五所川原駅〜津軽中里駅
 ●問/津軽鉄道☎0173-34-2148

真夏のストープ列車
 ●期間/8月上旬(要予約)
 ●料金/要問合せ
 ●場所/津軽五所川原駅〜津軽中里駅
 ●問/津軽鉄道☎0173-34-2148

津軽鉄道駅弁
 ●申込/3日前まで要予約(ご注文は2個より)
 ●申込先/本社☎0173-34-2148
 (平日:8:30〜17:00、土曜:8:30〜12:30)
 津軽五所川原駅☎0173-35-7743
 ●問/☎0173-34-3971
 (7:00〜19:00)
 金木駅☎0173-53-2056(5:40〜21:00)

コミュニティカフェ でる・そーれ
 ●時間/10:00〜16:00
 ●休/第1・3日曜(要問合せ)
 ●交通/津軽鉄道五所川原駅そば
 ●問/☎0173-34-3971
 ●地図/P17:C-2

奥津軽の施設と景観

奥津軽トレイル

日本三大美林のひとつ「青森ひば」が広がる奥津軽の森にはかつて、日本で最初の、そして総延長320kmという日本一長い森林鉄道の軌道が網目のように敷かれていました。文豪・大宰治が繊細で鋭い感性を育み、津軽三味線の原型が生まれた奥津軽の経済を支えた豊かな山々。今なお残る軌跡をたどり、歴史や文化を肌で感じて豊かな自然に癒されるトレッキングが楽しめます。「山伏の荒行場コース」「太宰ゆかりの地コース」「みちのく松陰道コース」「青森ひばの神木コース」ほか、全8コース。マイカーを回送してゴール地点等で受け取るサービスを提供しています(地図/P16)

みちのく松陰道コース



太宰ゆかりの地コース

脇元海辺ふれあいゾーン

脇元地区は、かつて鯨漁を生活の糧に暮らしていた町です。年月が経つにつれて漁場は北上して北海道へと移り、昭和20年頃から衰退の一途を辿りました。現在、往時の姿を偲ばせる「鯨御殿」が復元され資料や当時の漁具などが展示されています。また、魚介料理が楽しめるサマーハウスや、ヒバのログハウス風バンガローもあります。



奥津軽の歳時記



河原神事・虫の昇天
農耕と虫を表した「相内の虫送り」

奥津軽 虫と火祭り

「虫おくり」という民俗は津軽西北地方に残る稲を病害虫から守ることを目的に伝わる慣習です。『永禄日記』では、1627年6月の記事に、稲虫がおびただしく散在で、虫祭りが行われ、藩でも7日間の祈禱を行ったとあります。また、イナゴの大群により、西北地方の稲が全滅したことが起こりといわれています。虫送りの虫は龍蛇体状の物で頭は主に木造り、胴は藁で造られ、大きい物では10メートルにおよびます。「奥津軽虫と火祭り」は虫送り行事をメインに、各々の土地に伝わる早苗振等の伝統芸能を披露し、虫を曳く祭りです。また、若者たちによる「松明御輿」、夜には、虫に火を放ち昇天させる神事も行われます。

走れメロスマラソン

太宰治生誕100周年を期に開催。五所川原市街地と生誕地・金木の景勝地をマラソンで巡ります。マラソンコース(距離)は数コースあり、体力・脚力にあわせてチャレンジできます。



中の島ブリッジパーク

十三湖に浮かぶ小島「中の島」には様々な施設が集結している「中の島ブリッジパーク」があります。シジミ採り体験ができる遊漁場、十三湊の繁栄や郷土の歴史をストーリー構成で展示する「市浦歴史民俗資料館」は必見。また、安藤船をモチーフにした木造遊具やアウトドアスポーツエリアなどがあります。キャンピングエリアのケビンハウスは青森ヒバで作られており、温かな雰囲気です。キャンピングシーンを満喫できます。



市浦地区、唐川城跡のふもとに位置し、大沼を中心に一周コースが整備され、湖沼や湿地林の動植物の観察に適しています。コースには「縄文の橋」と日本一長い屋根付の「東日流館橋」があり、変化に富んだトレッキングが楽しめます。近辺には中世に建造したとされる「日吉神社」があり、奥津軽の自然、歴史を満喫できます。

大沼公園

松の緑が四季を通じて美しい開放的な自然公園です。園内には野外活動施設もあり、家族で楽しむことができます。



「赤〜いりんご」の並木道

北限の梅林(津軽フラワーセンター)

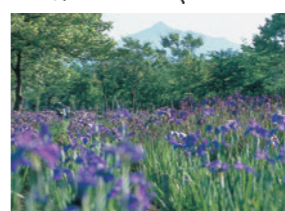
約2千本の「北限の梅」が咲き誇ります。夏のパラ、秋の紅葉も見事な彩りです。

赤〜いりんごの並木道

全国で当市だけが生産加工している、果肉まで赤い「赤〜いりんご(品種名:御所川原)」が1kmに渡って約380本植栽されています。実りの秋はもろろん、春にも鮮やかな真紅の花で街を彩ります。(P7参照)

3万株の花菖蒲(菊ヶ丘運動公園)

花菖蒲の名所。69品種、3万株が華麗な花を咲かせます。スポーツ施設や図書館等の公共施設も集まっています。



Y.C.M吉幾三コレクションミュージアム

五所川原市金木町出身の歌手・吉幾三が歌番組やコンサートで実際に着用したステージ衣装や愛用ギターのコレクション、直筆の書、舞台やドラマの台本などゆかりの品々を展示。貴重なプライベート映像も鑑賞できます。オリジナルグッズはお土産にも人気です。



- 時間/9:00~19:00 (10月~3月は~17:00)
- 休館/8月13日、12月31日~翌1月1日
- 料金/一般800円
- 交通/JR五所川原駅より徒歩約5分
- 問/☎0173-26-6686
- 地図/P17:C-2

津軽すこっぷ三味線世界大会

すこっぷ三味線は、家元・館岡屏風山が1985年に開発した宴会芸。誰にでも手軽に楽しめる芸として親しまれ、毎年12月には「すこっぷ三味線世界大会」も開催されています。大会では全国各地の奏者や外国人が熱演を繰り広げ、津軽のみならず全国的に広がっています。



ゴニカントランプ世界選手権大会

津軽地方独特のゲーム「ゴニカントランプ」。恒例となった大会には、外国人参加者もあり、年毎に人気は高まっています。



裸参り

12月30日(元日)にかけ市内3箇所で行われます。若者達がふんどし姿で百キロもある大締め縄や三俵、お供え餅や食べ物などの供物を持ち、神社へ奉納するまでの間、村内を練り歩きます。



奥津軽 虫と火祭り

- 期日/6月第3土曜 ●場所/五所川原市中心街
- 交通/JR五所川原駅下車
- 問/五所川原青年会議所 ☎0173-35-4049
- 地図/P17:C-1~2

裸参り

- 期日(予定)/12月30日(梅田裸参り)、12月31日(飯詰稲荷神社裸参り)、1月1日(前田野目裸参り)
- 場所/飯詰地区ほか ●交通/JR五所川原駅より車約15分
- 問/観光物産課 ☎0173-35-2111
- 地図/表記なし

走れメロスマラソン

- 期日/5月下旬または6月上旬
- 場所(スタート・ゴール)/立佞武多の館(地図/P17:C-2) 金木小学校(地図/P18:E-3)
- 問/五所川原市教育委員会 ☎0173-35-2111

脇元海辺ふれあいゾーン

- 期日/旧8月1日 ●場所/市浦脇元地区
- 交通/JR五所川原駅より車約1時間
- 問/お山参詣保存会 ☎0173-62-3536
- 地図/P18:A-1

津軽すこっぷ三味線世界大会

- 期日/12月上旬
- 場所/ELM(ショッピングセンター)
- 交通/JR五所川原駅よりバス約15分
- 問/すこっぷ三味線世界大会事務局(ラヴパーション2内) ☎0173-34-2339
- 地図/P17:E-3

ゴニカントランプ世界選手権大会

- 期日/1月中旬 ●場所/五所川原市民体育館
- 交通/JR五所川原駅よりバス約10分
- 問/五所川原商工会議所 ☎0173-35-2121
- 地図/P17:E-2

奥津軽トレイルガイド

- 料金/半日8,000円、1日15,000円※ガイド1名に対し10名以内
- 交通/津軽鉄道金木駅より車約10分~1時間15分
- 問/かなぎ元気倶楽部 ☎0173-54-1616
- 地図/P16 奥津軽トレイル参照

脇元海辺ふれあいゾーン

- 期間/4~9月
- 料金/鯨御殿宿泊3,900円 バンガロー宿泊8,000円
- 交通/JR五所川原駅より車約1時間15分
- 問/☎0173-62-2775
- 地図/P18:A-1

中の島ブリッジパーク

- 期間/4~11月
- 料金/ケビンハウス宿泊1棟12,000円~14,400円
- 交通/JR五所川原駅より車約1時間
- 問/☎0173-62-2775
- 地図/P18:C-1

大沼公園

- 交通/JR五所川原駅より車約50分 ●地図/P18:B-2

狼野長根公園

- 交通/JR五所川原駅より車約20分 ●地図/P16:F-3

花菖蒲(見頃:7月上旬~中旬)

- 交通/JR五所川原駅より車約5分 ●地図/P17:E-1

北限の梅林(見頃:4月中~下旬)

- 交通/JR五所川原駅より車約25分
- 地図/P16:F-3
- 【北限の梅まつり】
- 問/長橋地区住民協議会 ☎0173-29-3111

大沼公園・狼野長根公園・北限の梅林・花菖蒲についての問/五所川原市公園管理課 ☎0173-34-9555

五所川原市広域地図

記載した道路は、工事や未舗装等により、悪路もあります。車で旅行する際は、事前に交通地図等で、道路状況をご確認ください。
※この地図は平成29年3月31日現在の情報です。



① 金山焼体験&五所川原市内観光&立佞武多まつり鑑賞

- 五所川原駅** バス(33分)又はタクシー **津軽金山焼(体験・60分)** バス(33分)又はタクシー
- 五所川原駅下車&カフェ** である・そーれ(買い物) 徒歩(3分) **太宰治「思ひ出」の蔵(15分)**
- 徒歩(3分) **マルコーセンター「海鮮丼」(食事・買い物・45分)** 徒歩(1分) **立佞武多の館**
- (観光・60分)** 徒歩(1分) **あげたいの店みや(買い物)** 徒歩(3分) **立佞武多まつり鑑賞**
- (19:00開催/約1時間)/宵の街を愉しんでください**

※津軽金山焼へは路線バス(飯詰能開短大環状線)を利用



② 津軽鉄道に乗って太宰ゆかりの地巡り

- 津軽五所川原駅** 鉄道(30分) **金木駅** 下車すぐ **「かなぎ文学散歩」(2時間・3時間コース)** 10:00開始※2時間コースは津軽三味線なし/3時間コースは昼食あり 徒歩(約20分)
- 喫茶「駅舎」で食事(30分)** 徒歩(約20分) **金木駅** 鉄道(30分) **津軽五所川原駅**

五所川原市街地散策/宵の街を愉しんでください

かなぎ文学散歩2時間コース/金木駅→旧津島家新座敷→雲祥寺→南臺寺→太宰治記念館「斜陽館」
かなぎ文学散歩3時間コース/金木駅→太宰治記念館「斜陽館」→津軽三味線会館→雲祥寺→旧津島家新座敷(昼食:茶房鄙家のお弁当)



③ 津軽半島周遊、奇勝としじみ採り体験

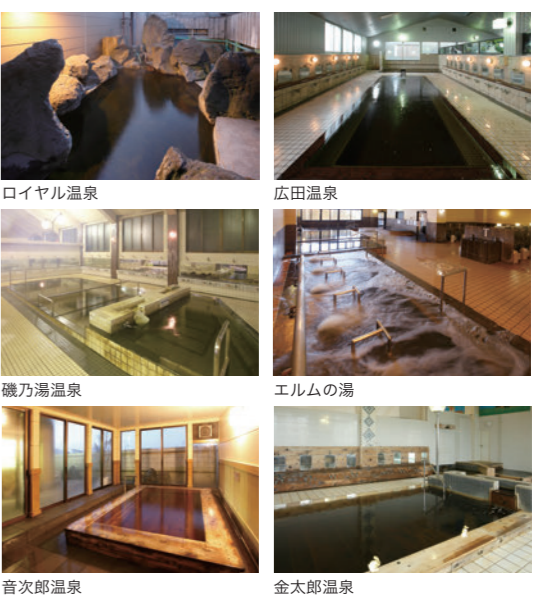
- 新青森駅下車** 徒歩(約3分) **レンタカー** 車(約2時間) **龍飛岬観光案内所** 車(約5分)
- 龍飛岬・青函トンネル記念館(見学30分)~竜泊ライン~** 車(約25分) **道の駅こどもり**
- 車(約7分) **小説『津軽』の像記念館** 車(約25分) **中の島ブリッジパーク(しじみ採り体験)** 車(約15分) **道の駅十三湖高原** 車(約30分) **金木・太宰ミュージアム・津軽三味線会館**※②参照(約60分) 車(約20分) **レンタカー(返却)/宵の街を愉しんでください**



※五所川原市には、「ELM(ショッピングセンター)」近くに「トヨタレンタリース」、「ニッポンレンタリース」があり、「タイムズカーレンタル」が駅より約8分の場所にあります。
※新青森駅周辺では駅より徒歩約1~3分ほどに上記3レンタカー会社があります。

温泉&宿泊施設

- ☉は温泉有り Hは宿泊施設
- ホテルサンルート五所川原 地図/P17:C-2
- ☉H 五所川原市布屋町25 ☎0173-34-8811
- ホテルサンルート パティオ五所川原 地図/P17:D-2
- H 五所川原市田町181 ☎0173-33-3333
- パークイン五所川原エルムシティ 地図/P17:E-3
- H 五所川原市唐笠柳字藤巻66-12 ☎0173-34-8910
- 五所川原温泉ホテル 地図/P17:C-4
- ☉H 五所川原市松島町2-90 ☎0173-34-2121
- 夢野温泉ホテル 地図/P16:F-3
- ☉H 五所川原市持子沢字隠川686 ☎0173-29-3153
- 芝楽旅館 地図/P17:C-2
- H 五所川原市字旭町46 ☎0173-35-1201
- ロイヤル温泉旅館 地図/P17:A-3
- ☉H 五所川原市太刀打字千束刈13-7 ☎0173-39-2323
- 広田温泉 地図/P16:F-3
- ☉ 五所川原市広田字下り松111-1 ☎0173-34-6385
- 磯乃湯温泉 地図/P17:B-2
- ☉ 五所川原市下平井町219 ☎0173-35-0568
- エルムの湯 地図/P17:E-3
- ☉ 五所川原市唐笠柳字藤巻509-17 ☎0173-34-1126
- 音次郎温泉 地図/P17:D-4
- ☉ 五所川原市石岡字藤巻56-1 ☎0173-35-9885
- 金太郎温泉 地図/P16:F-2
- ☉ 五所川原市姥薮桜木299-1 ☎0173-34-7715
- 民宿と食事処エンゼル 地図/P18:D-3
- H 五所川原市金木町芦野84-715 ☎0173-53-2349
- 金木中央老人福祉センター「川倉の湯っこ」 地図/P18:D-4
- ☉ 五所川原市金木町川倉字七夕野 ☎0173-53-3864
- 旅館琴湖園 地図/P18:C-1
- H 五所川原市十三五月女薨2-2 ☎0173-62-3102
- 民宿 和歌山 地図/P18:C-1
- H 五所川原市十三羽黒崎133-22 ☎0173-62-2357





- 🌄 景勝地
- 🏠 体験施設
- ♨️ 温泉施設
- 🏨 ホテル・宿泊施設
- 🏪 ガソリンスタンド
- 🏬 大型小売店
- 🎨 観光施設・ミュージアム等
- 🏢 その他の施設
- 🚉 JR線
- 🚊 その他の鉄道
- 🛣️ 主要国道
- 🛣️ 主要県道・幹線道路
- 🛣️ 高速道路
- 🛣️ 有料道路
- 🛣️ 冬季閉鎖道路

記載した道路は、工事や未舗装等により、悪路もあります。車で旅行する際は、事前に交通地図等で、道路状況をご確認下さい。
※この地図は平成29年3月31日現在の情報です。

🅑 菊ヶ丘運動公園 / 22:00まで
立佞武多まつり臨時無料駐車場(予定)
観光・マイクロバス用 / 一般車両駐車不可

🅑 エルムの街 / 23:00まで
立佞武多まつり臨時無料駐車場(予定)
一般車両用 / 有料シャトルバス発着場